

大村敏朗氏畧伝

Mr. Toshiro Ômura and his work on botany

静岡市馬場町の大村洋品店の御主人、大村敏朗氏は国会のために今回多額の御寄付をして下さいました。本書を刊行できたのも実に大村氏の高德の致す所と存じます。国会一同に代って大村氏に厚く感謝申し上げます。

大村敏朗氏の植物の御事蹟について少し紹介してみましよう。大村氏は大正9年6月8日静岡市に生まれました。少年のとき大村洋品店に養嗣子となられまして家業を受けつぎました。旧制の県立静岡商業学校に学びました。少年時代より植物がお好きで、植物採集をしたり、植物の本を読んだり致しました。生れながら恵まれた明晰なる頭脳と健脚とを活用法をさして、短日時の間に静岡市付近の植物は大方御知りになりました。少年時代は筆者が植物の手ほどきをして上げたものです。それから後は東京帝国大学、京都帝国大学、国立科学博物館などの専門の学者を師として植物学を勉強されました。標本をその学者に送って名称などを教わったり、沢山の文献を得て片端から読みこなしたり、あるいは又、全国の同好の人達と共に山野を歩き、専門家にお供して実地に植物を勉強しました。

氏は写真をとる優れた技能をお持ちであります。氏がとった植物写真は学者の資料としても貴いものでした。標本の製作も実によく出来て、模範的のものを沢山作りしました。

氏の植物調査や採集は静岡県下を中心に、関東、甲信、近畿が主ですが、南は屋久島まではるばる行かれました。大戦前に数万点の植物標本を集めましたが、全部を戦災で失ってしまいました。しかしそれに屈することなく、戦後は一層活発なる山野歩きをして、戦前に倍する沢山の標本を集めてあります。標本は生物を研究する基礎資料ですから実に貴重です。当地に科学博物館が出来ればその基礎となるでしょう。国立科学博物館で毎春開かれる腊葉展示会に美事で珍稀の植物標本を出品されました。それらは同館に保存されてあります。

氏は採集の記事などを植物関係の雑誌に沢山発表されました。その主なものを拾いますと、植物研究雑誌、北陸の植物、植物趣味、日本シダの会々報、野草および静岡生物同好会などであります。主なものだけ記すと：

- 1 シダ植物写真、北陸の植物6巻(1957)より17巻(1969)まで連載して合計107図版に達しました。
- 2 珍稀シダ写真集、日本シダの会々報の14号(1955)から数回にわたり付録として添え、15枚あります。以上2件の写真はシダ類の最も珍しいもの揃いでありました。
- 3 清水港の帰化植物目録、北陸の植物6巻2号51頁、162種をあげてあります。

また氏が単行本としたものは：

- 1 竜爪山植物誌。1940年、107頁、1000余の植物と主な種類の解説があります。よく調べた完全で正確なものです。
- 2 静岡市西部植物誌、1943年、71頁、10003品を記す。区域は旧安倍郡南薬科村小瀬戸および旧志太郡朝比奈以南から大崩海岸に至る宇津谷の山脈地域であります。
- 3 静岡市付近シダ植物分布図、1954年、現静岡市に属する地域で地図に山や谷ごとにシダ植物の名を記したものの。

大村氏が発見の新植物

- 1 トヨグテイノデ *Polystichum Ohmurae* KURATA 1956, オシダ科, 長野県豊口山で筆者と一緒に見出す, 北陸の植物5巻3号79頁(1956)に発表, ホソイノデに似て, ソーラスが縁辺よりにつくのが異なる。
- 2 オオムラホシクサ *Eriocaulon Omuranum* T. KOYAMA ホシクサ科, 1951年信州白樺湖^{カバ}で採集。

植物学雑誌69巻 211頁 (1956) に発表。外見イヌノヒゲに似て、頭花がより小形で、葉も著しく細くて幅は1ミリ以下である。

- 3 スルガスゲ *Carex Omurae* T. KOYAMA カヤツリグサ科, 1954年 静岡市安倍峠で筆者と同行し見出した。植研30巻10号 313頁 (1955) に発表。ヒメカンスゲ, ミヤマカンスゲなどに似ている。葉辺は逆にザラつく。
- 4 ハシナガカンスゲ (果胞のハシが長いので名づける) *Carex phaeodon* T. KOYAMA カヤツリグサ科, 山梨県タル峠(静岡県清水市両河内との塚にある)で発見, 植研30巻10号315頁 (1955) に発表。イワカンスゲなどに似て長い匍枝がある。
- 5 オオトウバナ *Clinopodium Omuranum* HONDA シソ科, 昭和15年 焼津市花沢山で採集, 植物学雑誌 54巻 542号 (1940) に発表, イヌトウバナより葉が広い(卵形)。学者によりイヌトウバナに合する。
- 6 ウメガシマテンナンショウ *Arisaema umegashimense* F. MAEKAWA (未公表) サトイモ科, 筆者と共に静岡市安倍峠でとる。スルガテンナンショウに近縁である。
- 7 シブカワニンジン *Codonopsis lanceolata* var. *Omurae* T. KOYAMA キキョウ科, 1957年, 氏が遠江引佐町渋川温泉裏山の蛇紋岩地帯で発見, 植研32巻2号61頁 (1957) に発表。葉の裏面に毛が生えている。花はツルニンジンと同じ。遠州, 三河, 紀伊尾鷲に分布。
- 8 オニアゼナルコ *Carex Toshironis* T. KOYAMA カヤツリグサ科, 1954年氏が岡部町で採集。植研31巻9号 287頁 (1956) に発表。ゴウソとアゼナルコとの自然雑種。
- 9 シブカワシロギク *Aster rugulosus* MAXIM. var. *shibukawuensis* KITAM. et MURATA キク科, 氏が1956年に引佐町渋川温泉で採集, 1959年, 京都大学の村田氏によって確認された。分類地理19巻2号69頁 (1961) で発表された。サワシロギクに似て地下茎を曳かない。果実も上半が裸出する。
- 10 オゼサトメシダ *Athyrium deltoideofrons* f. *ohmurae* KURATA オンダ科, 尾瀬沼方面で筆者と一緒にとる。サトメシダの一形で表面に毛がある。
- 11 ニオイヒヨドリバナ *Eupatorium chinense* var. *simplicifolium* f. *fragrans* (HONDA) HARA キク科, ヒヨドリバナの一形, 葉は細くて芳香があるもの。日本坂でとった。
- 12 シロバナイヌコウジュ 高草山。^{フモト}
- 13 シロバナヒカゲチヨウジ 竜爪山麓。
- 14 シロヒキオコシ 竜爪山。
- 15 ウスイロフシグロセンノウ 同。

以上の12以下は単に花色(色素)変異品であるから詳細は省いた。学名に大村又は敏朗のラテン語を付けたものが六種もあるが、この学名は学界に永久に使われるでしょう。

分 布 上 の 発 見

氏が各地を廻って採集した植物で分布上の新産地として知られたものが沢山あります。多くは静岡県のものですから、静岡県下の植物地理に貢献した事は大きいと思います。ここに代表のものを少し拾って見ましょう。

イヌスギナ	丸子地区(暖地で珍)
ミゾシダモドキ	わら科方面
ツクシャブソテツ	同
ヒメウラジロ	駿府城(県下唯一)
カギガタアオイ	竜爪山
サンヨウトリカブト	同 (分布東限)
フジタイゲキ	高草山(分布西限)

シマジタムラソウ	渋川鉱泉（分布東限）
ヒメタヌキモ	わら科方面（食虫植物）
ムシヤリンドウ	伊豆玄岳（東海唯一）
イロシヤジン	竜爪山
アキワギク	同
アイノコシラスゲ	駿府城（第二産地）
オオタマツリスゲ	白糸方面
ミツパテンナンショウ	竜爪山
コバイモ	高草山
クルマユリ	八公嶺方面

帰化植物の調査

戦後は清水港付近に沢山の帰化植物が生え出しました。これはアメリカから食料品に混入して輸送されたものが多いと思います。大村氏はこの港付近を戦後幾回も探して沢山の帰化植物を発見しました。採集品は多くは筆者と一緒に内外の文献を渉猟して学名をしらべ、和名の無いものに新名を下しました。またむつかしい植物は専門の学者に送って名を教わりました。日本で初めて清水港や静岡市で見付かったものが沢山ありました。その内で若干の代表のものを示しますと：

ミナトカラスムギ、ヒバリノチャヒキ、セイヨウカモジグサ、ミナトムギクサ、カモメノチャヒキ、アメリカハルタデ、キバナモクセイソウ、コメバミソハギ、アレチウリ、クワモドキ外沢山あります。

大村氏は分類のむつかしいイネ科、カヤツリグサ科、シダ類、帰化植物などに多くの貢献をして居ります。（杉本順一）

Summary

Mr. Toshiro Ohmura, the owner of Ohmura Haberdashery, was born in Shizuoka City in 1920. Since his boyhood, he has been devoting himself to the study of Japanese plants. Through years of his study, numerous plant species were added to the flora of Shizuoka Prefecture. Twelve new taxa were found by him in Shizuoka as well as in other Prefectures. They are *Polystichum ohmurae* KURATA, *Eriocaulon omuranum* T. KOYAMA, *Carex omurae* T. KOYAMA, *C. phaeodon* T. KOYAMA, *C. toshironis* T. KOYAMA, *Clinopodium omuranum* HONDA, *Arisaema umegashimaense* F. MAEKAWA (unpublished), *Codonopsis lanceolata* var. *omurae* T. KOYAMA, *Aster rugulosus* Maxim. var. *shibukawaensis* KITAM. et. MURATA, *Athyrium deltoideifrons* f. *ohmurae* KURATA, and *Eupatorium chinense* var. *simplicifolium* f. *fragrans* (HONDA) HARA.

(By Junichi Sugimoto)